大阪大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムは、専攻医一人一人に「本物の麻酔科専門医」としての知識と技量および社会性を習得・体得させ、先進医療と地域医療のニーズに応える責任ある医師を育成するための研修環境を提供することを主眼としている。

本研修プログラムの基幹施設は、国公立大学病院の中でも有数の臨床実績を誇る大阪大学医学部附属病院（以下、阪大病院）である。阪大病院の麻酔科および集中治療部（ＩＣＵ）の母体である大阪大学医学部麻酔集中治療医学教室（以下、阪大麻酔科）は、これまでに多数の麻酔科専攻医を指導、育成し、臨床のみならず学術の面でも優れた麻酔科専門医として世に輩出しており、多くの連携病院の医療のニーズに応えている。

麻酔科専門医として認められるためには、多くの症例を経験する中で幅広い知識と技術を習得し体得せねばならない。あらゆる診療科における様々な手術を、新生児から超高齢者にいたるまで、そして重症度の低いものから高いものまで、幅広く多く経験する必要がある。そのためには症例の量と質が豊富であり、多くの指導医を有するプログラムで研修することが望ましい。

本プログラムの症例の量と質および指導医の豊富さは、全国の麻酔科専門研修プログラムの中でも際立っている。したがって本プログラムでの研修によって、麻酔科専攻医は幅広い臨床経験を積みつつ丁寧な指導を受けることができ、麻酔科専門医に必要な知識と技術を得ることができる。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 4年間を通して、麻酔科専門医として必要な症例数および経験必要症例数の規定数を達成し、かつ将来的に希望するサブスペシャルティの経験を積むことができるように、柔軟なローテーションを構築する。
- 初年度は病院群のどの施設から専門研修を開始しても良いが、原則的に研修期間終了までに阪大病院（基幹施設）で6ヶ月以上の研修を行う。
- 4年間の研修期間中に原則として2ヶ月以上の集中治療研修を行う。
- 専門研修の期間は、専攻医は大阪大学医学部麻酔集中治療医学教室に属するものとする。
- 次年度以降の研修施設については、専攻医の長期的なビジョン、現時点での研修の進捗度、および関連施設全体の人員体制を考慮して、研修管理委員会が異動先を決定する。したがって<u>専攻医の希望を優先して異動先を決定することはない</u>。
- 集中治療の専門的な研修を希望する場合は以下のプランを予定している。

  ・1-2年目で麻酔科専門医試験受験に必須な症例数を終了する。

  ・3-4年目（のうち1年間は）に阪大で集中治療部専従1年間、もしくは事情に応じて大阪急性期総合医療センター・大阪国際がんセンター・大阪母子医療センターICUのいずれかで研修する。

  ＊集中治療専門医の受験資格は阪大集中治療部での1年程度の専従勤務で取得できる。
- ペインクリニックの研修を希望する場合は以下のプランを予定している。

  【1】ペインクリニック（緩和ケアを含む）を専門的に研修したい場合

  ・1-2年目で麻酔科専門医試験受験に必須な症例数を終了する。

  ・3-4年目に大阪大学医学部附属病院で1年間（ペイン専従（週1手術麻酔の外勤））＋西宮市立中央病院・大阪警察病院・日生病院のいずれかで1年間研修する（手術麻酔＋ペイン）。

  【2】ペインクリニック（緩和ケアを含む）をひとまず1年研修したい場合

  ・麻酔科専門医試験受験に必要な症例数を終了した後、1年間、大阪大学医学部附属病院・西宮市立中央病院・大阪警察病院・日生病院のいずれかで研修する（阪大はペイン専従（週1手術麻酔の外勤）、その他の施設は手術麻酔＋ペイン）。

  ・1年の研修終了後にペインの研修を継続したい場合は、【1】に準ずる。

研修実施計画例

	基幹施設より開始	連携施設より開始	ペイン研修	集中治療専門研修
初年度 前期	阪大病院 （手術室）	大阪医療センター （手術室）	大阪警察病院 （手術室）	急性期医療センター （手術室）
初年度 後期	阪大病院 （手術室）	大阪医療センター （手術室）	大阪警察病院 （手術室）	急性期医療センター （手術室）
２年度 前期	阪大病院 （手術室・・）	大阪医療センター （手術室）	大阪警察病院 （手術室）	急性期医療センター （手術室・ICU）
２年度 後期	阪大病院 （ICU）	大阪医療センター （手術室）	大阪警察病院 （手術室）	急性期医療センター （手術室・ICU）
３年度 前期	急性期医療センター （手術室・ICU）	阪大病院 （手術室）	阪大病院 （ペイン・手術室）	阪大病院 （ICU）
３年度 後期	急性期医療センター （手術室・ICU）	阪大病院 （手術室・ICU）	阪大病院 （ペイン・手術室）	阪大病院 （ICU）
４年度 前期	市立豊中病院 （手術室・ICU）	国際がんセンター （手術室・ICU）	西宮市立中央病院 （ペイン・手術室）	母子医療センター （手術室）
４年度 後期	市立豊中病院 （手術室・ICU）	国際がんセンター （手術室・ICU）	西宮市立中央病院 （ペイン・手術室）	母子医療センター （ICU）

週間予定表

阪大病院手術室勤務の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	休み	手術室	外勤	当直	休み
午後	手術室	手術室	休み	手術室	外勤	当直	休み
当直		当直				当直	

4. 研修施設の指導体制

①　専門研修基幹施設

大阪大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：吉田健史（2024年4月より）

専門研修指導医：藤野　裕士（麻酔・集中治療）

高階　雅紀（麻酔）

内山　昭則（集中治療）

大瀧　千代（産科麻酔）

柴田　晶カール（麻酔）

松田　陽一（麻酔・ペインクリニック）

久利　通興（麻酔）

高橋　亜矢子（麻酔・ペインクリニック）
井口　直也（麻酔・集中治療）
徳平　夏子（集中治療）
平松　大典（麻酔）
入嵩西　毅（麻酔）
井浦　晃（麻酔）
植松　弘進（麻酔・ペインクリニック）
小山　有紀子（麻酔・集中治療）
坂口　了太（集中治療）
堀口　祐（集中治療）
木西　悠紀（産科麻酔）
榎谷　祐亮（集中治療）
古出　萌（集中治療）
博多　紗綾（緩和医療）
松田　千栄（産科麻酔）
本庄　郁子（産科麻酔）
吉田健史（麻酔・集中治療）

専門医：盤井　多美子（小児麻酔）
岩田　博文（集中治療）
清水　優（麻酔）
林　優里（麻酔）
菊池　浩輔（麻酔）
松本　悠（ペインクリニック）
久保　直子（集中治療）
橋本　明佳（集中治療）
妙中　浩紀（集中治療）
田中　愛子（集中治療）

麻酔科認定病院番号：49

特徴：

・あらゆる診療科があり、基本的な手術から複雑な手術、ASA1～5の患者に至るまで幅広い症例の経験が可能である。

・2年間の在籍で経験必要症例の規定数の達成が可能である。

②　専門研修連携施設A

1. 大阪警察病院

研修実施責任者：北 貴志
専門研修指導医：北 貴志（麻酔）
清水智明（麻酔，集中治療）
荒井章臣（麻酔）
井上潤一（麻酔，ペイン）
一澤真珠（麻酔）
猪原智恵（麻酔）
西村暢征（麻酔）
河合恵子（麻酔）
寺西理恵（麻酔）
清水千穂（麻酔）
上田篤史（麻酔）
竹田峰子（麻酔）
松村美穂（麻酔，ペイン）
専門医：
池田真悠実（麻酔，ペイン）
高田祥子　（麻酔）

麻酔科認定病院番号：295
特徴：症例数の多い急性期病院であり小児外科を除くほとんどの科の症例が研修できる。

2. 大阪急性期・総合医療センター

研修実施責任者：西村信哉（麻酔・集中治療）
専門研修指導医：稲森紀子（麻酔・集中治療）
平尾　収（麻酔・集中治療）
山下健次（麻酔・集中治療）
松本充弘（麻酔・集中治療）
田中成和（麻酔・集中治療・心臓麻酔）
東名里恵（麻酔）
専門医：　丸山直子（麻酔）
寺島弘康（麻酔・心臓麻酔）
福並靖崇（麻酔）
石山　諭（麻酔）
駒田　暢（麻酔）

池村彩華（麻酔）
麻酔科学会認定病院番号：70
特徴：　シームレスな周術期管理を行っている。

3.　大阪労災病院

研修実施責任者：松浦康司
専門研修指導医：松浦康司（麻酔，集中治療）
宮田嘉久（麻酔）
山下　淳（麻酔，心臓血管麻酔）
貴志暢之（麻酔，ペインクリニック）
横川直美（麻酔，ペインクリニック）
専門医：辻本さやか（麻酔）
内本咲恵（麻酔）

麻酔科認定病院番号：197
特徴：高度で豊富な手術症例とペインクリニック症例

4.　箕面市立病院

研修実施責任者：石井　努
専門研修指導医：石井　努（麻酔）
人見　一彰（麻酔）
有村　佳修（麻酔）
数見　健一郎（麻酔）
上田　洋子（麻酔）
木内　知子（麻酔）
西原　留奈（麻酔）
麻酔科学会認定病院番号：368
特徴：　緊急手術が比較的多いことが特徴です。

5.西宮市立中央病院

研修実施責任者：前田倫
専門研修指導医：前田倫（5378）松村陽子（9264）溝渕敦子（11136）
専門医：菅島裕美（20367）

麻酔科学会認定病院番号：571
特徴：日本麻酔科学会認定病院　日本ペインクリニック学会認定研修施設　日本緩和医療学会認定研修施設　日本頭痛学会認定準教育病院

6. 独立行政法人国立病院機構大阪医療センター病院

研修実施責任者：渋谷 博美
専門研修指導医：渋谷 博美
天野 栄三
石井 裕子
伊藤 千明
上田 祥弘
春原 真理
中西 裕貴子
専門医：山路 寛人　（心臓麻酔）
桐山 有紀　（心臓麻酔）
山形 晃太
蒋　妍

麻酔科学会認定病院番号：584
特徴： 当センターは、大阪市営地下鉄谷町線と中央線の「谷町4丁目」駅上にあります。29の診療科があり、外科、整形外科をはじめ、多くの手術が毎日施行されています。外科系診療科との連携も良く働きやすい環境で
す。
小児は、耳鼻科手術のほか、骨形成不全症などの整形外科手術の麻酔が多く、また、心臓血管麻酔専門医認定施設であり、MICSや冠動脈疾患などの心臓麻酔が研修できます。そのほか食道･肺などの悪性疾患を中心とした胸部外科麻酔の他、脳外科の血管内手術や覚醒下手術の麻酔も経験できます。育児支援としては、敷地内保育園だけでなく、病児保育や夜間保育もあり、ママ麻酔科医が働ける環境も整っています。

7. 関西医科大学附属病院

研修実施責任者：上林卓彦
専門研修指導医：上林卓彦（麻酔）
萩平哲（麻酔，呼吸器外科麻酔）

大井由美子（麻酔，小児麻酔）
中嶋康文（麻酔，心臓血管麻酔）
中本達夫（麻酔，ペインクリニック，区域麻酔，神経ブロック）
中畑克俊（麻酔，産科麻酔）
梅垣岳志（麻酔，集中治療）
伊藤明日香（麻酔，心臓血管麻酔）
岩崎光生（麻酔）
上村幸子（麻酔）
野々村智子（麻酔）
旭爪章統（麻酔，ペインクリニック）
奥佳菜子（麻酔）
金沢路子（麻酔，産科麻酔）
内田整（麻酔）
中本麻衣子(麻酔)　※専門研修指導医　計 16 名

専門医：楠宗矩（麻酔，集中治療）
右馬猛生（麻酔）
添田岳宏（麻酔）
大平早也佳（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1234

特徴：麻酔の各種分野（呼吸器外科麻酔、小児麻酔、心臓血管麻酔、ペインクリニック、産科麻酔）のエキスパートが揃っており、多数・多彩な疾患・手術患者に対する科学的全身管理が研修可能である。
また、総合集中治療部では麻酔科を中心に closed system で集中治療診療を行っており、内科系・外科系を問わず重症患者の全身管理が研修できます。

8. 関西労災病院

研修実施責任者：興津賢太
専門研修指導医：上山博史（麻酔、産科麻酔）
興津賢太（麻酔）
田村岳士（麻酔）
清中さわみ（麻酔）
中野一菜（麻酔）
福原彩（麻酔、救急、集中治療）

安江雄一（麻酔、救急）
専門医：　　奥野亜依（麻酔）
田中みちる（麻酔）
石丸紗也佳（麻酔）
稲垣佳苗（麻酔）
中村藍（麻酔）
中島友理奈（麻酔）

麻酔科認定病院番号：327

特徴：阪神地区の急性期医療の中核病院。消化器外科（食道、胃、膵臓、大腸）、呼吸器外科、泌尿器科、産婦人科でロボット支援手術を行うなど領域によっては大学病院以上の医療を実践。また心臓血管外科症例、脳神経外科症例、末梢神経ブロック施行数も豊富。

9. 大阪府済生会中津病院

研修実施責任者：岩倉健夫
専門研修指導医：岩倉健夫（麻酔）
岡雅行（麻酔）
金子路子（麻酔）
宮田有香（麻酔）
小澤満喜子（麻酔）
松山恭悠（麻酔）
専門医：　　古曽部和彦（麻酔）
播本尚嗣（麻酔）

麻酔科学会認定病院番号：311

特徴：　一般外科はもとより、心臓外科・脳神経外科・形成外科・歯科口腔外科など幅広い症例の経験が出来る。

10. 国立循環器病研究センター

専門研修指導医（5 名）
大西佳彦
吉谷健司
金澤裕子

前田琢磨

南　公人

専門医（6 名）

下川　亮

中野雄介

加澤昌広

堀田直志

森永将裕

三浦真之介

循環器専門病院で、2019 年に吹田市岸部の新病院へ移転しました。手術室はハイブリッド手術室 4 室とロボット手術室 1 室、陰圧手術室 1 室を合わせて総 12 室で運営しています。心臓外科手術は成人、血管、小児合わせて年間 1200 症例施行されています。脳外科手術は年間 300 症例で、産科手術は心疾患合併帝王切開手術を中心に年間 100 症例、循環器内科やカテーテル治療を合わせて年間 2400 症例麻酔科管理をおこなっています。

11. 心臓病センター榊原病院

研修実施責任者：石井　智子

専門研修指導医：石井　智子（心臓血管麻酔）

木村　素子（心臓血管麻酔）

認定病院番号：1142

特徴：心臓血管外科領域の麻酔

12. 大阪国際がんセンター

研修実施責任者：谷上博信

専門研修指導医：谷上博信（麻酔・集中治療）

大川　恵（麻酔・集中治療）

飯田裕司（麻酔・集中治療）

園田俊二（麻酔・集中治療）

日生下由紀（麻酔・集中治療）

大橋　祥文（麻酔・集中治療）

専門医：　山村　愛（麻酔・集中治療）

古川佳穂（麻酔・集中治療）

鉢嶺将明（麻酔・集中治療）

喜多沙奈（麻酔・集中治療）

麻酔科学会認定病院番号：187

特徴：

・特定機能病院として高度先進医療を実践し、がんの診療に特化した診療体制の中で、難治性がんに対する多彩な周術期管理が可能である。

・麻酔科管理の集中治療室を有しているため、集中治療の研修も可能である。

・胸部外科手術及び脳外科手術に関しては短期間で必要症例数の達成が可能である。

・研究所やがん対策センターが併設されており、臨床のみならず、麻酔科とこれらの組織との共同研究が複数進行中であり、研究面での成果も期待できる。

13. 市立池田病院

研修実施責任者：小野まゆ

専門研修指導医：小野まゆ（麻酔・ペインクリニック）、森　梓（麻酔）、滝本佳予（麻酔・緩和）、別府曜子（麻酔）、神崎由莉（麻酔・ペインクリニック）、神崎　亮（麻酔）

専門医：中田由梨子、西村祐希、吉藤正泰

麻酔科学会認定病院番号：841

特徴：標準的な地域医療を維持し、ペインクリニック認定施設をいかし区域麻酔を多用した施設。

14. 国立成育医療研究センター

研修実施責任者：鈴木康之

専門研修指導医：鈴木康之（小児麻酔・集中治療）
大原玲子（産科麻酔）
糟谷周吾（小児麻酔）
佐藤正規（産科麻酔）
蜷川　純（小児麻酔）
山下陽子（産科麻酔）
行正　翔（小児麻酔）
馬場千晶（小児麻酔）
宮坂清之（小児麻酔）
古田真知子（小児麻酔）
松永　渉（産科麻酔）
浦中　誠（小児麻酔）
橋谷　舞（小児麻酔）

阿部真友子（産科麻酔）
伊集院亜梨紗（産科麻酔）
専門医：　時任剛志（小児麻酔）
竹内洋平（小児麻酔）
清水　薫（麻酔・集中治療）
一柳弘希（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号：87
特徴：
・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、先天性疾患の成人麻酔、産科麻酔（無痛分娩管理を含む）および周術期管理を習得できる。
・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。
・小児肝臓移植（生体、脳死肝移植)、腎移植の麻酔、周術期管理を習得できる。
・小児がんセンターがあり、小児緩和医療を経験できる。
・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。

15. 市立豊中病院

研修実施責任者：高田幸治(麻酔集中治療)
専門研修指導医：香河清和(麻酔集中治療)
二宮万理江(麻酔集中治療)
桐山圭司(麻酔集中治療)
専門医：　甲原志緒里(麻酔)
八木拓也(麻酔集中治療)
本田絢子(麻酔)

麻酔科学会認定病院番号：352
特徴：
・全ての診療科があり、基本的な手術から複雑な手術、ASA1～5の患者に至るまで幅広い症例の経験が可能である。また、緊急手術も多く経験できる。
・2年間の在籍で心臓外科手術を除く特殊症例の症例数の達成が可能である。
・集中治療の研修を行うこともできる。

16. 日本生命済生会日本生命病院

研修実施責任者：花田　留美
専門研修指導医：岡田　俊樹　　　　（麻酔）
花田　留美　　　　（麻酔、ペインクリニック）
玉井　裕　　　　　（麻酔、緩和医療）
藤原　優子　　　　（麻酔）
須田　万理　　　　（麻酔）
清水　梨江　　　　（麻酔）

麻酔科学会認定病院番号：21400569
特徴：
麻酔に関しては、婦人科腹腔鏡症例が多いが、外科系12科あり一般的症例を広く研修できる。
緩和医療に関しては、身体症状に関して直接介入型の緩和ケア研修が可能。
ペインクリニック診療（外来診療、透視下ブロックなど）の研修も可能。

17. 医療法人医誠会　医誠会病院

研修実施責任者：田中　暢（麻酔、集中治療）
専門研修指導医：嘉山　邦仁（麻酔）
岩崎　紗世（麻酔）
認定病院番号：1256
特徴：地域内で中心的な役割を果たす手術施設。
指導医　3名、専攻医　１名の計4名が在籍しており、手術麻酔（全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、伝達麻酔など）を中心に、安全で質の高い周術期管理を実施している。
脳神経外科・消化器外科・整形外科・形成外科・心臓血管外科・呼吸器外科・乳腺外科・婦人科・泌尿器科等の多岐にわたる症例経験が可能。
救急医療・集中治療のローテーション可能。

18. 三重県立総合医療センター

専門研修指導医:古橋　一壽(麻酔)
川端　広憲(麻酔)
西川　理絵(麻酔)
住吉　美穂(麻酔)
専門医:庄村　千恵子(麻酔)

冨田　正樹（救急･集中治療）
認定病院番号:775
特徴:小児，産科，心臓，呼吸器外科，脳神経外科すべての経験が可能です。

19. 大阪はびきの医療センター
研修実施責任者：　高内　裕司
専門研修指導医：　高内　裕司（麻酔，集中治療）
播磨　恵　（麻酔）
麻酔科学会認定病院番号：164
特徴：　呼吸器疾患の専門施設として、低肺機能症例や酸素投与・人工呼吸を必要とする重症症例、各種呼吸器感染症症例の周術期管理を経験できる。また、呼吸器外科の様々な手術症例も経験でき、産婦人科症例も豊富である。（帝王切開症例は、主に産婦人科の自科麻酔で行っているが、プログラムで必要であれば麻酔科管理をさらに増やすことは可能。）

20. 国立病院機構　大阪南医療センター
研修実施責任者：林　英明
専門研修指導医：林　英明（麻酔）
竹田　清（麻酔）
専門医：　石﨑　剛（麻酔）
笠井　智美（麻酔）
浅井　真理子（麻酔）
麻酔科学会認定病院番号：544
特徴：
日本臨床麻酔学会教育インストラクター（神経ブロック）が在籍し、施設単独で日本区域麻酔学会認定ハンズオンワークショップを開催可能である。
関節リウマチ患者の手術症例が多く、気道確保困難症例の麻酔管理や神経ブロックを活かした術中・術後鎮痛法を経験することができる。

③　専門研修連携施設B

1.大阪母子医療センター
研修実施責任者：橘　一也
専門研修指導医：橘　一也　（小児麻酔・産科麻酔）

竹下　淳　（小児麻酔・産科麻酔）
山下　智範　（小児麻酔・産科麻酔）
竹内　宗之　（小児集中治療）
川村　篤　（小児集中治療）
専門医：　濱場　啓史　（小児麻酔・産科麻酔）
藤原　愛　（小児麻酔・産科麻酔）
中村　さやか　（小児麻酔・産科麻酔）
川瀬　小百合　（小児麻酔・産科麻酔）
和田　愛子　（小児麻酔・産科麻酔）
西垣　厚　（小児麻酔・産科麻酔）

認定病院番号：260
特徴：小児麻酔と産科麻酔に関連するあらゆる疾患を対象とし，専門性の高い麻酔管理を安全に行っている．代表的な疾患として，胆道閉鎖症，胃食道逆流症，横隔膜ヘルニア，消化管閉鎖症，固形腫瘍（小児外科），先天性水頭症，もやもや病，狭頭症，脳腫瘍，脊髄髄膜瘤（脳神経外科），複雑心奇形（心臓血管外科・小児循環器科），口唇口蓋裂（口腔外科），小耳症，母斑，多合指(趾)症（形成外科），分娩麻痺，骨欠損，多合指(趾)症，膀胱尿管逆流症，尿道下裂，総排泄腔遺残症（泌尿器科），斜視，未熟児網膜症（眼科），中耳炎，気道狭窄，扁桃炎（耳鼻科），白血病，悪性腫瘍（血液・腫瘍科），無痛分娩，双胎間輸血症候群（産科）などがある．さらに，小児では消化管ファイバーや血管造影，MRI などの検査の麻酔・鎮静も，麻酔科医が行っている．集中治療科での研修も積極的に行っている．

2. 独立行政法人国立病院機構　大阪刀根山医療センター

研修実施責任者：藤田　泰宣
専門研修指導医：藤田　泰宣　（麻酔、集中治療）
松岡　由里子（麻酔、ペインクリニック、漢方医療）
潮田　梓　（麻酔）
松原　陽子　（麻酔、緩和医療）

麻酔科学会認定病院番号：816
特徴：

- 呼吸器外科の麻酔を集中的に研修できる。呼吸器手術患者の麻酔管理は、全身管理の基礎になる重要な内容を多く含んでいる。

- 緩和ケアは、対象は主に肺癌患者である。週に2－3回の回診を行っており、麻酔かとしても積極的に取り組んでいる。呼吸器緩和ケア内科を標榜している。
- 集中治療部はRICUであり、術後患者のうちの重症例を扱うとともに、慢性呼吸器疾患や神経難病の呼吸不全の、急性増悪のケースが多いのが特徴である。麻酔科としては、術後管理症例や急変対応を手伝う程度で平常は担当していないが、研修は歓迎されている。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

①　採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2021年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する.

②　問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，電話，e-mailのいずれの方法でも可能であるが、e-mailの方が連絡がつきやすい。

担当者：山本　俊介（やまもと　しゅんすけ）
大阪大学大学院 医学系研究科 麻酔集中治療医学教室　助教
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘２－２
TEL 06-6879-3133　　FAX 06-6879-3139
E-mail　syamamoto0@anes.med.osaka-u.ac.jp
Website　　　https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/anes/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

①　専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる.

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために, 研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた<u>専門知識</u>，<u>専門技能</u>，<u>学問的姿勢</u>，<u>医師としての倫理性と社会性</u>に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた<u>経験すべき疾患・病態</u>，<u>経験すべき診療・検査</u>，<u>経験すべき麻酔症例</u>，<u>学術活動</u>の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. <u>専門研修方法</u>

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. <u>専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス</u>

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

１年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修３年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修４年目

３年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して2年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門

医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての国立病院機構大阪南センター，大阪はびきの医療センター、市立豊中病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．